



【プレスリリース】

報道関係各位

2024年10月7日

最小1か所の切開創での手術も可能、患者さんのさらなる負担軽減と整容性向上に期待
県内初導入の手術支援ロボット「ダビンチ SP」による
前立腺がんの初症例を実施、経過良好

社会福祉法人 恩賜財団 済生会支部神奈川県済生会横浜市東部病院（神奈川県横浜市鶴見区、以下、当院）は、2024年10月に神奈川県内で初めて手術支援ロボット「ダビンチ SP」を導入し、同月1日に同機による前立腺がんの初症例を実施しました。患者さんは経過良好で予定通り、無事に退院されましたことをご報告いたします。

当院ではこれまで、ダビンチ Xi の2台体制で泌尿器科、消化器外科、婦人科、呼吸器外科領域でロボット支援手術を実施してまいりましたが、今後の症例数の増加に対応するため最新機種「ダビンチ SP」を導入することになりました。

【ダビンチ SP について】

ダビンチ SP は単孔式（シングルポート）の手術支援ロボットで、1本のアームに取り付けられたカメラと3本の鉗子が、アクセスポートを経て体腔内に入り手術を行います。従来型の多孔式（マルチポート）ロボットと比べて、手術創が最小1か所で済むことと、体内の切開範囲が縮小することから、患者さんの体への負担軽減とさらなる整容性向上が見込めます。

【今後の展望】

今後の見通しとしては、初めは主に泌尿器科と婦人科がダビンチ SP を利用し、消化器外科と呼吸器外科もダビンチ SP が有用な術式を徐々に導入していく予定です。



＜本件についてのお問い合わせ先＞

済生会横浜市東部病院 広報推進室 担当：波多野・荒木・吉村

電話：045-576-3000

〒230-8765 神奈川県横浜市鶴見区下末吉3丁目6番1号

Email: koho@tobu.saiseikai.or.jp



【ロボット手術センターについて】

当院では横浜市で初となるロボット支援手術を 2012 年に開始。以来、緻密な手術操作が可能という特徴を生かし、適応手術を拡大して参りました。2024 年 10 月現在、国内有数の症例数 2,300 超もの実績があります。

【ロボット手術センター長 メッセージ】

ロボット手術センター長

前立腺治療センター長

泌尿器科部長

石田 勝 (いしだ まさる)

「ダビンチ SP による手術は、創が少ないという目に見える形のメリットがあります。また、切除や修復をする目標の臓器に至る体内の操作においても、従来のロボットより切開する範囲を狭くできるなど、侵襲（体への負担）をより少なくすることができます。

新しいダビンチ SP とダビンチ Xi、それぞれの機種の特徴を活かして、最適な治療を提案してまいります。」

